

環境審議会（令和 2 年度第 2 回）顛末

日 時 令和 2 年 12 月 2 日（水）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所 富良野市役所 1 階 大会議室

出席者 委 員：有澤浩、泉正子、市村英規、鎌田勲、鎌田慶司、鎌田直人、芝野伸策、加藤寿宏、高橋穰二、（9 名）

（欠席委員）：家次敬介、石川芳、大矢根史典、佐藤里津江、関澤博行、浜谷政之、山崎省三（7 名）

事務局：市民生活部長 山下俊明（途中退席）、環境課長 高橋秀文、環境係長 西尾善行

1. 開会（進行：高橋課長）

2. 挨拶

3. 議事（議長：高橋会長）

（1）「アンケート調査結果」について

※事務局（西尾係長）より、資料 1「アンケート調査結果」について説明

委員からの質問・意見

鎌田（直）委員

満足度・重要度・改善度についてどのように計算しているのか。

事務局

CS 分析という手法を用いている。回答者に個別項目の満足度と全体の満足度を聞き、そこから重要度・改善度を計算している。

高橋会長

今回のアンケート結果と前回行ったアンケート結果で、大きな変化のあった内容はあるか。

事務局

前回から傾向が大きく変わったものは見られなかった。なお、設問について、地球温暖化の内容や各項目の満足度といった内容を追加しており、分析結果を計画に反映しやすく工夫している。

（2）「環境基本計画」について

※事務局（西尾係長）より、

・資料 2-1、2「環境基本計画の素案」について説明

委員からの質問・意見

高橋会長

28 ページの修正箇所について、地域会館と説明されたが、文章では地域全館となっている。どちらが正しいのか。 ① 環境基本計画 P28

事務局

地域会館が正しいものである。

加藤委員

地域循環共生圏の考え方や、地球温暖化の関係で水環境や水育が重要となっていることを踏まえて、「(3) 河川環境の保全」の部分にも「(2) 森林の保全と育成」と同様に「育成」という言葉を入れてほしいのだが、いかがか。 ② 環境基本計画 P16

事務局

河川についても育成の部分が必要と考えているので、検討する。

高橋会長

加藤委員に意見をお伺いしたいのだが、水育というのは水を使った教育という部分だと思うが、河川環境の育成という部分では何か具体例はあるか。 ② 環境基本計画 P16

加藤委員

昨今は海洋プラスチック問題がクローズアップされているが、川にも非常にごみが多いと感じており、アンケートでもごみの問題が話題になっている。これらに共通する対策として、河川をきれいにすることで、海へ流れていくプラスチックを内陸部で止める、といったことが挙げられる。海と川は繋がっており、川と森も繋がっているため、これらの色々なものが循環しているということを踏まえてやっていけるとよいのではないか。 ② 環境基本計画 P16

高橋会長

他に意見はあるか。

有澤委員

富良野市の市有林に天然林は含まれているか。

鎌田（慶）委員

ほとんどは人工林だが、一部には、樹齢 100 年を超える良好な天然林も含まれている。

芝野委員

15 ページの図では市有林が 834ha だが、34 ページの管理指標の現状値では 837ha となっている。どちらが正しいのか。 ③ 環境基本計画 P15

事務局

環境白書では 837ha としているため、正しいのは 34 ページの 837ha となる。15 ページの図は修正する。

高橋会長

34、35 ページの管理指標について、目標値は空欄となっているため、今後設定するのだと思うが、その際は設定理由や根拠を計画に示していただきたい。 ④ 環境基本計画 P34

事務局

目標値については、同時進行で策定が進められている総合計画とも整合を図りながら進めることになる。そのため、基本的には総合計画の目標値で示された根拠が環境基本計画の目標値の根拠となるので、総合計画に含まれていない目標値については、担当課等の考え方をお示しできる形にしたい。

高橋会長

目標値は基本的に総合計画からということだが、我々は環境審議委員であるため、環境基本計画の目標値の設定理由が総合計画の設定値だからで終わるだけでなく、総合計画の設定値になった理由も説明いただきたい。 ④ 環境基本計画 P34

(3)「富良野市地球温暖化対策計画」について

※事務局（西尾係長）より、

- ・資料 3-1「緩和策と適応策について」
- ・資料 3-2「温室効果ガスの排出状況と将来予測」
- ・資料 3-3「国の進める緩和対策とその削減割合」
- ・資料 3-4「富良野市における再生可能エネルギーのポテンシャル」
- ・資料 3-5「緩和策の施策案」
- ・資料 3-6「気候変動による影響予測と適応策案」

について説明

委員からの質問・意見

鎌田（直）委員

資料 3-6 の「北海道の評価」は、北海道庁が北海道に対して行った評価ということか。富良野市が作った、北海道に対しての環境評価ということか。

事務局

北海道庁が北海道に対して行った評価である。

鎌田（直）委員

北海道庁自身が「落葉広葉樹から常緑広葉樹への置き換わりの可能性」を喫緊の可能性として挙げているという理解で良いのか。将来的には落葉広葉樹から常緑広葉樹に置き換わることを心配しなければならないと思うが、北海道の針葉樹が長期的に減っているというデータが北海道大学から出ているため、直近の問題として、エゾマツ・トドマツ・アカエゾマツのような針葉樹が減っているということを取り上げた方が良いのではないか。 ⑤ 地球温暖化対策実行計画 P14、(P28)

事務局

北海道庁の行った評価であるため真意は分からないが、この評価のベースは環境省の作成したものであるため、それを参考に作っていると思われる。また、地球温暖化の進行が最悪のケースとなった場合、今の北海道からは想像もできないが、今世紀末には暖温帯林が分布できるというシミュレーションもあるようなので、それも踏まえてこれらの文言を残したと思われる。

鎌田（直）委員

承知した。そうすると、「北海道の評価」の部分は富良野市の審議会で議論する対象でないという理解してよいか。

事務局

その通りである。これらの評価について、長期的に見るのか短期的に見るのか、そもそも対象にするのかといった点で御意見をいただき、整理していきたいと考えている。

高橋会長

北海道の評価も踏まえて施策案を考えていく場合、今の鎌田（直）委員の指摘は貴重な意見だと思う。北海道の評価については本審議会で関わるものではないが、今の針葉樹の部分については、再度富良野市としても検討していただきたい。他に意見はあるか。 ⑤ 地球温暖化対策実行計画 P14、

(P28)

鎌田（直）委員

施策案に「外来種の防除対策と市民への啓発」とあるが、ここで言う外来種は国内外来種も含むと考えてよいか。 ⑥ 地球温暖化対策実行計画 P29

事務局

その通りである。

鎌田（直）委員

一般的に外来種というと、専門家以外は国外から入ってくるものを想像してしまうため、用語の検討をした方がよいと思う。 ⑥ 地球温暖化対策実行計画 P29

事務局

検討する。

高橋会長

他に意見はあるか。

鎌田（直）委員

木質バイオマスの話があったが、これは木質バイオマス発電所を富良野市に作る想定なのか。それとも富良野市で作った木質バイオマス燃料の取引などを想定しているのか。

事務局

木質バイオマスについては、事務局内でもどこまでやるのかという話までは進んでいないが、現時点では、発電のような大規模なものではなく熱利用など地域で消費する規模が良いと考えられる。

高橋会長

エネルギーのいわゆる地産地消を目指すということで理解した。

鎌田（直）委員

先ほどの質問にも関連するのだが、国の温室効果ガス削減目標として26%の削減が決められており、富良野市でもそれを目標にするということで理解している。現在東大演習林では木材をバイオマス発電用にある程度市外に供給しているのだが、そういったものによる削減はどこにカウントされるのか。

事務局

資源として市外に供給している場合は、富良野市の削減としてはカウントされない。エネルギーをどれだけ使っているかが評価対象であるため、それらを富良野市内で使えるようにすると、色々と変わってくると思っている。

高橋会長

色々と専門的な意見が出たので、事務局には前向きに検討していただきたい。他に意見は無いようだが、全体を通して何かあるか。

鎌田（直）委員

カーシェアリングや公共交通機関の利用促進といった施策案があるが、現時点でもJRは富良野以南での利用が不便で使いにくく、将来的には廃線の話も出るのではないかと危惧している。そのような中、公共交通機関の利用促進を目標として考えるのはよいと思うのだが、それができる策のようなものは持っているのか。

事務局

その部分については、事務局でも案として出して揉んでいるところだが、JRのような大きい公共交通ではなく、例えば地域内でのデマンドバスやタクシーといったものが考えられる。

4. その他

5. 閉会